

令和6年度 教育研究所 班別研究

「里沼 CivicPride プロジェクトチーム」

I 研究テーマ

主体的に学び、系統性を生かした「探究的な学び」の実現
～地域人材の活用や地域との連携を通して～

II 研究の目的

総合的な学習の時間の単元計画において、学年間や学校間の学習内容に系統性を持たせた上で、地域人材を活用したり地域との連携をしたりする、「校区の地域性を生かした里沼学習プログラム」を行うことで、児童生徒が主体的に学ぼうとする学習意欲が高まることを授業実践を通して明らかにする。



Ⅲ 研究内容

1 「A 教諭の実践」

(1) 実践内容

A 小学校では、第3学年の総合的な学習の時間の単元「ぼくら、しぜんたんけんたい」において、探究課題「地域の自然環境の理解と環境保全運動」を設定し、実践を行った。

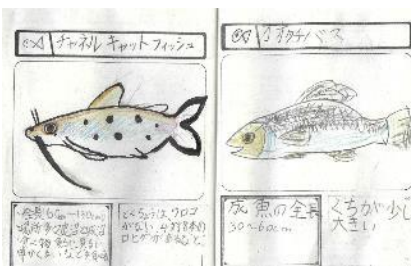
まず、課題の設定の場面では、身近な自然の観察や出前授業、ワークショップを通して単元の課題「里沼の良さを図鑑で伝え、里沼の自然を守るための方法を考えよう」を把握し、追究の見通しを持てるようにした。

次に、情報の収集および整理・分析の場面では、グループごとに小探究課題を設定し、本やインターネット、観察、調査等を通して里沼の良さを伝える図鑑を作成する活動を設定した。さらに、図鑑の作成や共有を通して考えたことを元に、「地域の自然のよさを守る」という視点で自分たちにできることを考えられるようにした。また、学校公開日に、作成した図鑑や小探究課題についてまとめた内容を来校者に向けて発表する活動を行った。

最後に、まとめ・表現の場面では、単元の振り返りを行い、考えの変化や成果についてまとめ、自分たちの取組を評価した。また、他校との連携として、B小学校、C中学校1年生と「オンライン里沼サミット」を開催し、お互いの学習成果について交流する活動を行った。次年度には、自分でできるエコ活動や里沼の歴史や文化財などについても探究する計画となっている。



出前授業の様子



作成した図鑑



学校公開での発表の様子

(2) 成果と課題

成果

○出前授業、ワークショップなど、地域人材の活用や地域との連携により、里沼の自然やその課題について自分事として捉え、児童が意欲的に取り組むことができた。

課題

●体験活動をさらに充実させるために、現地に赴くことが難しい場合でも活用できる地域人材をまとめておく必要がある。

2 「B 教諭の実践」

(1) 実践内容

B 小学校では、第 5 学年の総合的な学習の時間の単元「地域による特徴を知る」において、地域人材の活用や学年間の系統性を意識した実践を行った。

単元のねらいを「近隣の地域に関心をもち、調べたり、体験したりすることを通して、近隣地域と自分の地域の違いに気づき、地域による違いに対する見方や考え方を育てるとともに、学んだことを自らの生活や行動に活かそうとする」と設定した。

課題の設定の場面では、文化振興課の方に里沼についてのお話をしていただき、そこから自分たちの住む地域にある近藤沼の課題を見つける活動を設定した。近藤沼は他の沼と比べて知名度が低いことから、「近藤沼を広めよう」という目標を設定した。

情報の収集および整理・分析の場面では、実際に近藤沼へ行き、どうしたら知名度を広められるか考えながら調査する活動を設定した。そこで、他学年や学区内の中学校へ広めるために、成果物を作り展示してもらうことにした。学年を興味関心別に分け、近藤沼にちなんだマスコットキャラクターやトランプ、ポスター等を作成する活動を行った。

まとめ・表現の場面では、A 小学校と C 中学校と「オンライン里沼サミット」にて発表をしたり、近隣の地域に展示をしていただいたりした。



里沼について教わる様子



近藤沼で調査する様子



ポスターを作成する様子



マスコットキャラクター

(2) 成果と課題

成果

- 実際に近藤沼に調査に行くことで、対象の把握と情報の収集ができ、その後の活動に生かすことができた。
- 自分たちの作ったものを展示したり紹介したりしたので、児童が達成感を感じることができた。

課題

- 近藤沼への往復で約 2 時間かかり、調査の時間を長くとることができなかった。来年度はより多く時間を設け、休憩などもはさみながら実施したい。
- 第 5 学年では近藤沼の知名度を広めるための学習をした。第 6 学年では、今近藤沼を守っている人材を確保し、それをまとめて発信するなど、より学年をまたいで系統性のある学習にしていけるとよい。

3 「C 教諭の実践」

(1) 実践内容

C 中学校では、総合的な学習の時間において、中学校 3 年間で系統性を意識し、里沼を題材とした探究課題を設定して実践を行った。

第 1 学年では、里沼自体をより詳しく知るために、里沼に関わる「自然」を題材にした単元設定を行った。市役所地球環境課の職員による里沼に関する事前指導を受け、実際に 4 つの沼（城沼、蛇沼、茂林寺沼、多々良沼）に出向き、生物の種類や水質の調査を行った。

第 2 学年では、里沼周辺に根付いていった「文化」を題材にした単元設定を行った。本校の図書館にある書籍やタブレット PC によって情報を収集し、スライドの形式でまとめた。

第 3 学年では、これまでの学習内容をもとに、地域に里沼の魅力を発信していくことを最終目標とした実践を行った。里沼の魅力を発信するために、「誰に魅力を伝えるか」、「どんな内容を伝えるか」という主に 2 つのことを意識して、タブレット PC で「里沼 PR ポスター」の作成を行った。出来上がったポスターは、校区の 3 つの公民館（赤羽公民館、分福公民館、六郷公民館）や 2 つの小学校（D 小学校、E 小学校）に展示をして、多くの方々に見ていただいた。



水質調査のようす（第 1 学年）



作成したスライド（第 2 学年）



小学校での展示（第 3 学年）

(2) 成果と課題

成果

- 学年の発達段階に応じた活動内容を設定したことで、学年を追うごとに生徒の里沼学習に対する意識の高まりを感じることができた。
- 特に 2・3 年次では、個人で課題解決に向き合う時間を多く確保したことで、里沼についてより深く考えることができた。
- 社会とのつながりを意識し、地域に成果を発信したことで、生徒の達成感や自己肯定感の向上につながった。

課題

- 特に 2・3 年次ではグループで意見交流を行い、スライドやポスターを修正する時間をあまり確保できなかった。
- 取組の充実をさらに図るために、活用できる地域人材等を把握し、必要に応じて年間指導計画に位置づける必要がある。

Ⅳ 里沼 CivicPride プロジェクトチームの研究の成果と課題

1 研究の成果

- 前学年までに行った学習や体験をもとに単元設定を行ったことで、子どもたちが主体的に課題設定を行うことができ、自分ごとの学びへとつながった。
- フィールドワークを取り入れたり、昔から里沼に関わる人たちの思いに触れたりすることで、子ども自身が自然や社会とのつながりを感じることができ、郷土愛の醸成に有効であった。また、自分たちの学習成果物を公民館などの多くの人が集まる場に掲示するなどしたことで、達成感を感じる子どもが多く見られた。
- オンライン里沼サミットを開催し、学校を越えて児童生徒の成果発表会を行ったことで、子ども達にとって自分の住む地域以外の魅力に気づくきっかけとなり、相手を意識した発表を作り上げたりすることができ、達成感や自己肯定感の向上につながった。

2 研究の課題

- 単年ではなく、複数年単位で単元構想を行うことで、より系統性のある内容となるのではないかと考えられる。
- 活用できる地域人材を整理するとともに、更なる人材を見つけていくことが必要である。また、フィールドワークは重要だが、現地まで行くのが難しい場合の出前授業を行ってくれる団体等も今後見つけていく必要がある。
- 市として「里沼学習」の更なる体系化を図るために、各学校で行われている「里沼」を題材とした総合的な学習の時間の単元や学習内容を整理し、わかりやすくまとめる必要がある。また、学校間連携をより進めていくために、今年度行った「オンライン里沼サミット」を全市的に広げて実施するなどの工夫が必要である。